

第3回  
台東区基本構想策定審議会  
小委員会第3グループ

平成30年1月29日  
台東区保健所3階大会議室

台東区企画課

○出席者  
(9人)

委員	安島 博幸	委員	懸田 豊
委員	片山 泰輔	委員	山谷 修作
委員	本目 さよ	委員	成田 多恵子
委員	小田切 満寿雄	委員	早津 司朗
委員	二木 忠男		

○欠席者  
(1人)

委員	富士 滋美
----	-------

○事務局

企画課長	前田 幹生
文化振興課長	内田 円
観光課長	飯野 秀則
産業振興課長	菅谷 健治
産業振興事業団経営支援課長	上野 守代
環境課長	松原 秀樹
清掃リサイクル課長	朝倉 義人

(午前10時00分開会)

## 1. 開会

### ○委員長

それではこれより第3回台東区基本構想策定審議会小委員会第3グループを開会します。本日は最後の小委員会です。開会に際して本日の配布資料および委員の出席状況について、事務局からご報告をお願いします。

### ○事務局

—配布資料及び委員出席状況の報告—

### ○委員長

ありがとうございました。それでは次に本日の委員会の傍聴についてです。本日の傍聴希望者はいらっしゃいますか。

### ○事務局

本日1名の傍聴希望を受け付けています。

### ○委員長

それでは傍聴についてお諮りします。小委員会も審議会と同様、原則公開となっていますので、傍聴を許可したいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

### ○委員長

それでは傍聴を許可します。

(傍聴人入場)

## 2. 議題

### (1) 各分野の20年後の望ましい姿(案)について

### ○委員長

これより本日の議題に入ります。議題1、各分野の20年後の望ましい姿の案についてです。本日はこれまでの小委員会での審議の集大成ということで、産業、観光、文化、環境、各分野の20年後の望ましい姿を決定してまいりたいと思います。分野ごとに区切らせていただいて、皆さまからご意見をいただきたいと思います。

まず事務局より、各分野の20年後の望ましい姿の案についてご説明をお願いしたいと思

います。それでは事務局からお願いします。

**○事務局**

—各分野の20年後の望ましい姿（案）についての説明—

**○委員長**

ありがとうございました。それでは、分野ごとに区切って20年後の望ましい姿の案について意見をいただきたいと思います。

## ＜産業分野＞

### ○委員長

では最初に資料1の産業分野についてご意見を頂戴したいと思います。

### ○委員

最初に「経営基盤の強化」や「円滑な事業承継」とあります。この事業承継の中に廃業も含まれるのですか。子供や他人に譲るなどではなく、「もううちの店は時代に合わないからたたもう」という廃業です。承継なので、おそらく廃業は入っていないと思いますが、廃業も含めたほうが良いと思います。20年後なので、廃業も含めて円滑な事業承継ができたほうが良いのではないかと、ということが一点です。

それから商店街ですが、広域型の観光客向けの商店街はともかく、地元密着型の商店街が果たして20年後にあるのか、私は疑問が残ります。前回も前々回も言ったと思いますが、共働き世帯が増えていく中で、変わっていけば別ですが、昼間しかやっていない今のような商店街だとすると、実際なかなか活用できません。「あそこの魚屋さんはおいしい」といっても、そのおいしい魚が買えません。働き方とマッチングしていないといけません。そもそも商店街が必要なのかということもありますが、商店街があることでまちのにぎわいや防犯などに役立っていることも重々承知していますので、もし「商店街は必要で残すべきだ」ということであれば、「時代の特性に合った」という表現に直したほうが良いと思います。地域の特性もそうかもしれませんが、地域の特性は多分観光型だと思います。地元にあったというのは、地元によって例えば、「うちに魚屋さんは要らない」ということはないと思うので、地域の働く人たち、生活していく人たちの形態に合った商店街になるのかと思います。

最後に、「ものづくりをはじめとする区内産業」と書いてあります。確かに今ものづくりに力を入れていると思いますが、20年後もものづくりに力を入れているのでしょうか。20年後に何が産業の軸になっているのでしょうか。その上のところには、「台東区の特性である多様な産業の集積が一層進んでいる」と書いてあります。本当にたくさんのもやサービスなどが台東区には集積している中で、ものづくりだけに限定しているのが少し気になっています。今ものづくりに力を入れているから、20年後も力を入れるべきなのかというところは、議論の余地があると思います。ビットコインの話もありますし、ITの話もあります。仮想空間の話になっているのか、それとも実際のものなのか、私には想像が付きません。ここにもものづくりをあえて入れるべきかどうかは、議論したほうが良いと思います。

### ○事務局

20年後の望ましい姿という定義を先ほど申し上げましたが、「円滑な事業承継」の中に廃業が含まれるかどうかというところは、正直申し上げると想定はしていませんでした。事業承継の中に統廃合も含まれるのかもしれませんが、純粹に廃業が含まれているかということ、入れてはならないというところがお答えです。

それから、今委員から指摘のあった「時代に合った商店街」というところは、確かに議論の余地があるのかと思います。

また、「ものづくりをはじめとする」という記載については、区の姿勢として、今なお残る伝統工芸のようなものは、ものづくりの原点ですので、やはり外せないという考えで記載させていただいています。

## ○委員

廃業に関してですが、今からどうかではなく、20年後にあるべき姿としては、もう駄目だと分かっている事業に「どうしてもこれは潰せない、何かしらの事情があって潰しにくいなどの事情があって、ずっと継続していかなければいけない」という状況ではなく、リスタートが切れる、再チャレンジができるような環境をつくるという意味で、廃業というネーミングが良いかどうかは別として、もう一回リスタートができるという部分も含めていただけると良いのではないかと思います。

## ○委員

今委員が指摘されたことと多少重なりますが、いただいた案を見て少し気になったところで、創業という言葉の中に「新しい企業をつくる」という意味だけではなく、「新しい産業をつくる」ことが含まれているのかが少し曖昧です。できれば新しい企業を起こすだけではなく新産業を起こす、新しい産業をつくっていくという視点は不可欠ではないかと思います。それを生み出す多様性が台東区にはあるということがポイントだと思います。多様な環境があるから新しいビジネスがここで起こってきます。人材育成によって起こると書いてありますが、中にいる人を育成するだけではなく、色々な人がここにやってきて、ここでビジネスを起こそうということも十分考えられます。国内外から有能な人材が台東区に集まり新しい産業を起こしていく、そして日本の経済をけん引していくということが必要かと思います。

それから、産業のことだけではなく、職業や働き方の問題にも触れる必要があると思います。1964年の東京オリンピックのときに、初めてデザイナーという職業が日本で確立しました。この20年間で新しい仕事がITの方面だけではないところに出てくることはあります。産業だけではなく、新しい職業や働き方、そのようなものが生まれるという視点も不可欠なのではないかと思いました。

## ○委員長

ありがとうございました。皆いろいろ絡んでいることです。大変重要なお指摘だと思います。新しい産業、いわゆるイノベーションといわれているものが起きやすい環境、そのようなものが異業種の連携や人の交流、優れた人が住み付いてくれる、ここに来てくれる、そういうことによって生まれるのかと思います。そのようなニュアンスがどこかに入っている

と良いかと私も思いました。

## ○委員

ここにある望ましい姿が次のステップへの要素を書かれているので、できるだけ色々な要素を入れようということは分かります。しかし、あまりにもぷつんぷつんしてしまっていて、全体像が捉えづらいのではないかという印象を持ちました。例えば「経営基盤の強化や円滑な事業承継」という部分は、「経営基盤の強化と次代の産業を担う人材の育成によって、事業承継や創業、起業が促進される」というかたちに、前と後ろを変えて修文する必要があるのかと思います。そうすると、新しい産業を生み出すということも引っかかってくるのかと思います。

それから、「商店街」と「ものづくり」をわざわざ個別のものとして書く必要があるのかということです。書くとするならば、あのような狭い最寄り型の商店街で地域の特性を考えるよりも、やはり委員が言うように、「時代の特性、時代の変化に合わせた」ということが良いのかと思います。また、「ものづくり」と書いてありますが、台東区は、「技術の伝承がうまくいかなくて、どんどん廃業してしまって昔のものがつくれない」というような状況があるわけですから、その技術の伝承も伝承された時代というイメージが湧くような姿を入れていただければと思いました。

## ○委員

今委員から、「商店街は存在しているのか」というお話がありました。私もそれは非常に危惧するところです。年末の中元時期に2回、近隣型の商店街で売り出しをしています。その売り出しの抽選券の半分がアンケート用紙になっていて、その結果をみると、ほとんどの方が「私はここでしか買い物ができないから商店街がなくなったら困る」とおっしゃっています。高齢化が進んで、なかなか買い物に行けないという状況の中で、自分の家の近所の3軒、4軒先に商店があるというのが重要なファクターになっているのだろーと思います。

どんどん商店がやめる中で、生鮮製品については「プロがやってくれないか」という話をしています。プロがやるということは、具体的には小さなスーパーをつくるということです。荒川区の商店街には、御徒町の多慶屋さんが小規模店舗を出店していて、非常にはやっているということを聞いています。なるべく競合しないようにということで、商品を選んで考えていただいています。商店街をもう少し何とかしようという思いが基本にあるので、その思いを共有して、そういう店をどんどんつくっていくということが重要です。足立区の商店街の会長さんは肉屋さんなのですが、「周りにあった魚屋と八百屋がなくなったらとたんに売り上げが3分の1になってしまい、その2軒が客を集めていてくれていたことが分かった」とおっしゃっています。商店街が駄目になった理由は、地方においては外周道路をつくって、その外周にいろいろな産業を配置していき中身がなくなることだと言われています。しかし、東京ではもっぱら廃業で、店がなくなることが起因しています。ですから、店が

なくなるイコール、店を呼んでくるが必要になります。これは国の調査ですが、全国の38パーセントの買い物が商店街でなされているということで、これを重要視して、我々は商店街がなくなったら困るということを目の前の目標に置いて日々頑張っています。

## ○委員長

ありがとうございます。

ここで私からお聞きしたいのですが、地域の特性を活かしたというところで、アメ横やかっぱ橋の道具屋街、革製品を扱っているところ、いわゆる問屋さんが集まっているところは観光的にも面白いというのはここで扱うのでしょうか。この中に入っていますか、それとも観光のほうですか。

## ○事務局

文化、産業、観光のこの3分野は、今までの各委員の意見からも、切り離しは難しいだろうと思っています。どちらに入っているかと言われると、観光面から見れば観光に入りますし、産業面から見れば産業に入るところで、その辺は明確なお答えができません。

## ○委員長

地域の特性を活かした、個性と魅力あふれる商店街というのは、台東区に今ある問屋さん街のことであるとびったりくるかと思いました。

## ○事務局

そういう特性でいえば、観光客の多い商店街であったり、地域の方が利用する商店街であったりいろいろあると思います。そういった特性のことを申し上げているつもりです。

## ○委員

私は元アメ横商店街の会長をやっていましたが、特性として残していかなければいけないものがあります。問屋街という集合体でいくと、存続して戦後の闇市からずっとアメ横はやってきたわけですが、同じ商品、同じ商売をやっている人が何軒か並んで、ここには競争力があります。お客を個別に集める力もあります。郊外のショッピングセンターのように、デベロッパーが薬屋さんを1軒、八百屋を1軒、肉屋を1軒つくると競争がありません。だから殿様商売をやっていて、衰退していくのは当然です。我々は常に隣同士でもカルテルは結ばず、価格を自由にやっています。今問屋さんから小売りに少しずつ変えているのは「ジュエリータウンおかちまち」です。これも一つの御徒町の特徴です。仲見世なども、浅草寺のお店屋さんという意味でいうと必要なものです。そのような特徴が数多く台東区にあります。そういう意味では、これからもPRして、観光だけでなく、商売として成り立つように持っていかなければいけないところです。今委員長が言われたようなことで、特徴があると

ころが幾つもあります。キムチ横丁やバイク街、佐竹商店街、おかず横丁、かっぱ橋もそうですが、特徴あるものをもっと強く打ち出してほしいと思います。それが台東区の魅力だと思います。

### ○委員長

ありがとうございます。大体認識はできているかと思います。この集約された文章だけを読むと、よその人はよく分からないかと思います。本当はかなり個別のものが積み上がって行ってこれに集約されているというところがこれから出てくるのか、これを基に次の計画、目標に進んでいくと出てくるのかと思います。その辺りをしっかりと押さえておいていただきたいと思います。

### ○事務局

これまでの各委員からいただいたご意見等も踏まえ、また、ここに至った経緯も含めて、リード文として、区や各分野の特性・特徴をしっかりと盛り込み、最終的に「このようなまちにしていきたい」という繋がりになるかたちで整理をしていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

### ○委員長

それでは次の分野に移りたいと思います。よろしいでしょうか。

## <観光分野>

### ○委員長

それでは次は観光分野です。

### ○委員

観光分野について、概ねうまくまとまっていると思いましたが、少し不足すると思ったのが2段落目のところです。「相互理解が促進されています」で終わっていますが、相互理解が促進され、国内外の人々との友好的な絆が形成されているということが重要です。これまで外国人のことを盛んに言いましたけれども、地方から東京に来る人も多いです。私が働いている大学も全国から学生が来るのですが、行ったこともないのに「東京は嫌い」と偏見を持っている若い世代が多かったりします。そうではなく、東京には伝統的な文化や良いものもあって、地方の人も東京をきちんと理解する、そして今たくさん来ている中国人やこれから来る可能性の高い南アジアの人たちも、憎しみを持つのではなく好意を持ってくれる、そのような入り口が台東区になります。台東区は重要な責任を担っていますので、「相互理解が促進されている」というよりも、それをさらに進めて、「内外の人々との友好の絆が形成されている」位まで書き込みたいと思います。

### ○委員長

ありがとうございます。「相互理解が促進され、国内外の人々と友好的な絆が形成される」、とても良いと思います。

### ○委員

私はこの中で④の「歩けるまちづくり」が特徴あって良いと思います。文学的にも回遊できます。今の「西郷どん」もそうですが、墨田区と連携すれば、勝海舟と西郷隆盛という組み合わせもできます。色々な意味で台東区を歩きながら感じられる、体感できるまちという意味では、浅草、上野、下谷、浅草橋も含めて、うまくこの史跡ポイントを打ち出していくと良いと思います。

「めぐりん」はどちらかというと交通上の理由で回っていて、付け足しのようになっていますが、本当は停留所名も史跡の名前で出していく位、区の特徴を出して良いと思います。

「〇〇交差点」を「〇〇史跡」というように変えてもらったら良いという気がしています。

また、外国人の方も2,869万人と大勢来ています。これは区長とも話している部分かもしれませんが、「江戸ルネサンス」ということで、私ども観光4団体プラス1は、大いに協力して江戸を売っていこうと思っています。江戸の持ち味を出せるのは台東区しかありません。明治維新150年という起点にもなっていますから、今年スタートするのは正しいことで、明治の前は江戸だったという特徴で江戸の魅力を出す必要があります。「めぐりん」もそうですが、持てるものを全て出し切らないといけないと私は思います。今までは温存しす

ぎて、いろいろ史跡の話や明治維新 150 年と言っていると、上野はシャンシャンの話題で終わってしまいます。観光とこの次の文化に入りますが、そういったものを全部連携した意味で、非常に魅力があることをもう一度出していただきたいです。

## ○委員

「めぐりん」は私もそう思います。町名で書かれても乗りづらいです。「小野照崎神社前」と言われれば分かりますが、「下谷〇丁目」と言われても分かりません。

## ○事務局

「めぐりん」は「交通不便地域の解消のための区民の足」というコンセプトで始まっています。今は「北」「南」「東西」「ぐるーり」と4路線走っていますが、色々課題が出てきており、コンセプトをどうしていくのか所管も今考えています。今のご意見は所管にはしっかりお伝えさせていただきます。

## ○委員

旧町名とも連携できると思います。

## ○委員

一番気になったのは、このレベルの文章で「観光都市」と規定するのはどうかと思います。望ましい 20 年後の姿が観光都市になるというのは良いのですが、これは台東区が目指す方向であって、観光分野が観光都市となっているのは少し違うのかということが一番引っかかりました。

## ○委員長

ちょっとご検討いただきたいと思います。私が気付いたのは、先ほどの産業分野のところ「新産業が生まれてくる、新しく何か生まれてくる」という意見がありました。観光についても、これまでの何十年かを見ると、観光地ではなかったことが観光地になっています。資源は同じでも新しい切り口や視点、色々なきっかけによって、新しい観光地が生まれてきます。そのような機会を見つけて育てる、いわゆる「観光地の革新」「新しい資源の発見」といいますか、江戸もあります、それも切り口が違ふとまた違って見えてくることもあると思います。「インバウンドが急に増える」、「隣の区にスカイツリーができる」、「パンダの赤ちゃんが生まれる」など、ラッキーなことが色々あります。そのようなものを活かすような構えも、新しいものに結び付いていくのかと思います。

## ○委員

観光地に行けば必ず食事をします。数年前から京都市では「食べ残しゼロ」ということで、

食品ロスの削減を店舗でやってもらう取り組みを行っています。画一的にバーンと食事が出てくると、お客さんも食べ残してしまうこともあります。小盛りメニューをつくる、アレルギーはないかなど、色々丁寧に食事をお出しするという視点は非常に重要だと思います。松本市でも「食べ残しゼロ協力店」という取り組みをやっていて、マップをつくっていました。協力店がどういう取り組みをしているのかを書いて、マップで店舗の位置だけではなく取り組みも載せています。これは観光振興あるいは産業振興にも繋がるのではないかと思います。台東区でもそういうことを考えていただくと、ごみ減量にもつながりますし、観光振興や飲食業の振興にもつながるかと思います。そのようなきめ細かな食事環境の提供、快適さがこの望ましい姿にあまり出ていないと感じました。

### ○委員長

委員がおっしゃることは、食事に関する色々な倫理というようなことに近いと思います。それから外国人など色々な人に対して適量、適切な食事を提供するという、バリアフリーのような、ユニバーサルデザインのような感じを受けました。

### ○事務局

今ご指摘のあった食事の面では、観光施策の中でも「ハラル認証」など観光客に向けた取り組みは現状でもやっています。この望ましい姿案の中では、3行目の「快適に滞在できる環境の整備」という一言で表していますが、「質の高い観光地」や、その前の「誰もが満足し」と書いてあるとおり、観光客だけではなく、区民の方、お店をやっている方も満足できるような、質の高い観光地が望ましい姿ではないかと整理をさせていただいています。

### ○委員

「安全・安心・快適に滞在できる」ということになっていますが、滞在というどうしても宿泊型のことを考えますので、「滞在し回遊できる環境」のようにすると、その環境のために何が必要なのかというのも広がるのではないかと思います。

### ○委員長

ありがとうございます。先ほど歩いて回れるというようなところ、回遊というかたちで入れると、「めぐりん」の話なども入りますので、含みが色々出てくるかと思います。

他にいかがでしょうか。よろしいですか。それでは次にまいりたいと思います。

## <文化分野>

### ○委員長

次は文化分野です。

### ○委員

歴史的、伝統的なものがあり、その継承が重要だということが一番にくるのは良いと思いますが、次の段落に、「新たな文化の創出」や「文化享受」が書かれています。この「伝統」と「新しいものをつくる」ことをセットで語ることが重要だと思います。古いものを守るだけ、守るのを活用しようという、それを消費に使うということになります。しかし、重要なのは、歴史的な蓄積は時間軸で見たときに多様性がそこに蓄積されているので、それを基にしてクリエイティブなもの生まれるということです。伝統があるところに革新が生まれるわけで、天才が突然何もなくて発明、発見をするわけではありません。日本では京都でも金沢でも伝統をやりながら最先端のものをやっています。金沢も工芸の分野でユネスコのクリエイティブシティになっていますが、古いものを守っているだけではなく、市立の美術工芸大学をつくり、21世紀美術館をつくり、新しいものと古いものをセットにしている、それがあからこそ伝統が維持されています。だから、伝統と新しいものをつくるというのを一つの段落の中でセットにして、古いものがあってそこから新しいものが生まれていくという関係を書く必要があると思います。

それから2段落目の文化権のところ、「誰もが文化を享受できる環境を整備する」というのは大事なのですが、この書き方だけであると、行政がいわゆる高度経済成長期の福祉国家的な発想で保障してあげるという話になってしまいます。重要なのは行政がそういうことをするだけではなく、区民一人ひとりがきちんと他者を理解し、人々の文化権のことを理解し、それで文化的な権利が結果的に保障されるということが重要です。別に行政が障害を持った人のためのサービスをしなくても、例えばダンスの活動をしているサークルの人が障害を持った人たちも仲間に入れるということをするだけで、そういう人たちの文化的な権利は享受できるので、「区民一人ひとりが人々の文化権や他者の文化を理解するようになって、その結果台東区の中での人々のそういう文化権が保障されている」という書きぶりが良いと思います。区民自身も変わる、それによって社会が変わるから、皆のそういう権利がきちんと保障されるということです。当然行政にもやることはありますが、今のような行政が全部やってあげるといような書き方は改めたほうが良いかと思いました。

### ○委員長

ありがとうございます。非常に基本的に大事なことかと思います。区民が変わっていくという辺りがうまく入ると良いですね。もう一つは歴史的、伝統的ないろいろな文化の蓄積の上に何か生まれてくるという、そういうニュアンスもこの中にぜひ入れていただけるとよろしいと思います。

## ○委員

文章にすると非常に難しいと今説明があったとおり、何か享受するといわれてしまうと、何か押し付けているような感じもします。先ほどは商業の話でしたが、物ではなく文化は人々の心を豊かにします。これを台東区は与えられる、歴史、伝統、文化、芸術などを感じることによって、豊かな気持ちになる、このような書き方に何かできないものでしょうか。例えば4行目に、「人々の心豊かな生活が実現しています」とありますが、生活ではなく感性的なので、そこは変えられないかと思います。台東区の例えば上野の文化、そういったものが集積した日本一のまちである、それからその地がなおかつ江戸から明治に移り変わりの舞台であったということ、特に今年は明治維新 150 年を象徴したいのですが、まさにそれが台東区内にあるという誇りを伝えられるような言葉のニュアンスで、私は考えつかないのですが、感性的な言葉に変えていただいたら、文化の意味ではそれができるのではないかと思います。産業や観光ではできませんが、文化は夢がある話を、書き方も夢のある書き方をしてほしいです。

## ○委員長

そこに住んでいる人が、自分の住んでいるところの誇りを持つ地域のシビックプライドがありますけれども、その一番が、やはり文化があるということではないかと思います。そういう誇りを持って住み続けるということも、どこかに書けないでしょうか。

## ○委員

自らの歴史や伝統を誇るのはとても大事なことですが、気を付けなければいけないのが、「それが非常に優れていて唯一のもので、それ以外が駄目だ」という排除の発想になる可能性があるわけです。今国レベルであると、長州出身の政治家の人が明治維新 150 年と言っていますが、明治維新は、長州は勝ち組だから良いですけれども、そうではない人もいるわけです。やはり排除された人たちのことに対する配慮を欠くようなことはまずいと思います。江戸の文化はすごいけれども、このエリアはもっと懐は広いと思います。色々な人が集まってきて仲良くやってきているわけですから、そういう人を排除することもないということも同時にきちんと語る必要があるかと思います。

とにかく江戸だけの、伝統の生粋の江戸っ子だけが優れているとならないように、むしろ力がある人ほど威張らないですから、そこはきちんと上品に誇り、そして懐広く色々な人を受け入れるという、そういう江戸の一番蓄積のあるところである懐の広さのようなものを示していく、文章にするのはなかなか難しいと思いますが、かなり大事なところだと思います。日本生粋、日本文化至上主義のようにならないようなところをぜひ意識していただきたいと思います。特に上野なので、東京美術学校、音楽学校が明治 20 年につくられた地でもあるので、その辺の多様性と自分たちの伝統と、両方をきちんと意識できる、そういう地であるというところは、とてもこだわりを持って書いていただきたいと思います。日本の近代

化の歴史が集約されている地なので、そこをきちんと自覚しているという責任感のようなものがあるほうが、台東区の計画らしいと思います。

### ○委員

上野の山も、明治維新政府は江戸の否定から入ったということで、寛永寺根本中堂があったところに近代西洋文化の象徴である噴水広場をつくっています。あそこのど真ん中の場所に昔は根本中堂がありました。そこにつくってしまった、政治的なものも関係してくるし、歴史は政治だという、そういうかたちのものです。先ほど言われた色々な方々に対する配慮は含みながら言葉を選ばなければいけませんね。今年はそういう宿命的なものを感じているから、明治維新 150 年を記して、このことは文化の分野では大いに話していただければと思います。その舞台が上野だったということを象徴しています。

### ○委員長

この簡潔な言葉の中に、実は本当に深い、いろいろな意味が込められているということを、ぜひ記録に残しておいていただきたいと思います。

## ＜環境分野＞

### ○委員長

それでは次の4番目の環境分野です。

### ○委員

2行目に「地球環境に優しい社会への転換が図られている」と記載されていますが、今は進んでいないのか、全然していないようなイメージがあるので、「取り組みがさらに推進されている」などのほうが良いかと思います。

もう一つ、隅田川をはじめとした水辺環境の保全ですが、これに不忍池が入っていないのは、あれは川ではなく、東京都の持ち物だからというようなことなのでしょう。水辺というと、イメージ的には、台東区の水辺だと隅田川と不忍池というイメージが私の中にはあります。その辺は皆さんのご意見を入れていただいて、追加できるなら追加したほうが良いかと思います。

### ○委員

「隅田川をはじめとした水辺環境」というから、委員がおっしゃる不忍池も入っているでしょう。

### ○事務局

こちらを書かせていただいたときに、当初原案では隅田川も入っていませんでした。そうすると、どこのまちなのかさっぱり分からなくなってしまうという意見が庁内でありまして、水辺環境といったときに隅田川が一番代表されるので、そのような表記にしています。

### ○委員

でも他にないのだから、「隅田川や不忍池の水辺環境」としても良いのではないですか。

### ○委員長

審議会で出た意見は、ごみの問題がかなり多いのかなと思います。環境であれば、もう少し全体をまとめる言葉としては、「循環型社会の実現」、あるいは入っていないテーマとしては「再生可能エネルギーの利用」など、そのような大きい言葉を何かキーワードで入れるなり、最初にそういうまとめがあったほうが良いかと思います。

### ○委員

冒頭のところで、「区民や事業者による環境問題への積極的な取り組み」、となっていて、主体が区民と事業者だけです。台東区の場合、ものすごい数の観光客、来訪者がいます。やはり訪れる人たちにも環境の問題を意識してもらうことは非常に重要です。ここの主体の

ところに、観光客と書くか来訪者と書くか、書きぶりにはありますけれども、そういう人もこの地を良い環境に保つということに関心を持ってもらうということは必要かと思います。

### ○委員

関連して、また京都の話で恐縮なのですが、京都市ではかなり前から学校とタイアップして、修学旅行生に環境パスポートを発行して、神社などを回る時にごみ拾いなどをやってもらい、拝観料を割り引くなどのメリットを与えるという取り組みをやっています。やはり来外者にも環境保全に協力して参加していただくということは、視点として大事かと思います。

### ○委員長

観光とも関係しますね。つまり、台東区が取り組んでいる色々な高度な環境への取り組みを見て、皆がそれを見て、持ち帰って、自分のところでもそういうことを実践する、非常に教育的な観点、そういう部分をこの観光客が多い台東区が率先してそういう取り組みをしていくということになるのかと思います。

### ○委員

この環境分野でうたっていることは、要するに今色々行われている環境問題の解決のようなことを言っていますが、実質的に「きれいなまち」というのは、私は環境に絶対必要だと思います。ごみ一つ落ちていないというまちにしようではないかということ、そうすると例えば観光客が、ごみ一つ落ちていないところにごみを捨てるということができなくなってくると思います。そういう意味で、環境というのごみの収集車がどうこうという問題よりも、まちそのものがきれいだということが大事です。それからもう一つはおもてなしの心、これも来訪者に対しては非常に良い環境だと思います。社会的、一般的に今問題になっている環境問題ではなく、台東区らしいということであれば、清潔なまちという印象をどこかに入れたいです。

### ○委員長

ありがとうございます。見た目のまちのきれいさ、ごみが落ちていない、派手な看板などでまちの景観が混乱していない、それから花や緑が多い、緑視率が高い、というようなことが見たときに美しく感じられるまちかと思います。

### ○委員

姿として文言に盛り込みたいということです。

### ○事務局

今「快適な都市環境」という言い方をしていますけれども、分かりやすいという意味では、「きれいなまち」というのは非常に大事な言葉だと私も感じましたので、その辺はまた調整させていただきたいと思います。

### ○委員長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

## ＜全体＞

### ○委員長

まだ時間が残ってしまいましたので、振り返って1分野から他の分野も含めてご意見をいただけたらと思います。

### ○委員

「台東区の歌」がありますが、あれに全部載っています。「鐘は上野か さくらに蓮に」というところから始まります。あれが10年後や20年後も歌われるといいのですが。

### ○委員

歴史と新しさと、きちんとそういうこともきちんと歌ってて、よくできていますね。

### ○委員長

皆さん小学校などで習って、皆さん歌えるようなので、台東区民の皆さんが共通に持っているイメージはそういうところにあるのかもしれませんが。うまく使えると良いです。

他に何かご意見ありますか。よろしいですか。それでは少し早めですが、これで本日の議題は終了となりました。本日いただいたご意見を踏まえた20年後の目指す姿の最終的な調整については、委員長の私に一任させていただくということによろしいでしょうか。

(異議なし)

### ○委員長

ありがとうございます。それでは委員長に一任させていただきたいと思います。事務局より他にありますか。

## 3. その他

### ○事務局

— 一次回の審議会についての説明 —

## 4. 閉会

### ○委員長

他に何かありますか。よろしいですか。事務局からありましたように、本日で小委員会第3グループの開催は最後です。皆さまからの多大なご協力をいただき、本委員会も無事に終えることができました。誠にありがとうございました。それでは、これをもちまして、第3回台東区基本構想策定審議会小委員会第3グループを閉会します。本日はどうもありがとうございました。

## ○委員

一点いいですか。こうして集約していくと、前回の基本構想と似てきます。その辺はうまく切り分けておかないと、また、ちゃぶ台返しのようなことがあってはいけません。

## ○事務局

その点については、昨年の第5回の審議会のときに、将来像は一つ、その下に基本目標が幾つになるかというところは、今までの横断的な視点というご意見を多々いただいている中で、どういう分野でまとめていくかというところは、ある程度こちらも検討してご提案できればと思います。そのための議論を次の審議会でやっていただきたいと思っています。ですから、5回の審議会の際に、事務局としては一つの将来像、幾つかの基本目標でまとめていきたいと説明していますが、その辺はいろいろご意見を踏まえて最終的なかたちが決まっていくのかと思っています。

## ○委員長

次回からの審議会の本委員会は、会長の采配に委ねられますので、どうぞよろしく願います。それでは、どうもありがとうございました。

(午前12時00分閉会)

以上